

# クラス担任のための Career Guidance

2012 >> VOL.11

【キャリアガイダンス 特別編集】

RECRUIT

クラス作りの第一歩！

新しい学年が始まり、クラスの雰囲気作りに奮闘されている先生も多いはず。今回は、一体感のあるチームとしてのクラス作りに役立つワークを紹介します。

## 「聴き合う」「ワークでチームビルディング」

### 互いの存在を認めて 「コミュニケーション」は始まる

さまざまな企業や学校、プロ野球チームなどの組織活性化教育に携わってきた北森義明先生は、チームを支えるのはメンバー間の「コミュニケーション」であるという。

「コミュニケーションが大事ということ、誰もが知っていることです。でも、それを本当に分かる、深い気づきとともにそれを実感する機会は、日常の中でそう多くはありません。しかし、良いチームを作るには、この気づきが非常に大切です」

例えば、同じ目標に向かって日頃から一緒に練習しているスポーツチームのメンバー間でも、改めて互いの思いや考えを伝え合うプログラムを体験すると、メンバーや自分自身の気づきがある。そして、それがチームの能力を大きく引き出すきっかけになることも多いというのだ。

「良いチームというのは、お互いが『鏡』となって、自分自身をしっかりと見つけ

直すことができる。そういうコミュニケーションをとることが大事なんです」

### 「話し合い」ではなく「聴き合う」

では、お互いが「鏡」になれるようなコミュニケーションとは、どのようなものだろうか。

「聞く」ではなく、「聴き合う」。相手の話をただ一方的に受け取るのではなく、あなたの話をちゃんと受け取っていますよという態度を示しながら、相手がどういう気持ちで込めてその言葉を言っているかまで感じ取っていく。つまり、お互いの気持ちや感情の双方のやりとりがあって初めて成り立つのが「聴き合う」ということだ。

よく、「話し合いが下手」という人がいますね。でも、本当は「聴き合いがもつと下手」なんです。特に、クラスの中では、日頃ほとんど話をしたことがないという生徒同士もいるはず。そんな生徒同士が、互いの話を「聴き合う」ワークを行ってみると、さまざまな気づきにつながる可能性がある。(コラム1)

「聴き合いをするには、相手に関心を持つ必要があります。そして実際に聴き合いをするには、相手に関心をもっていることが大切です。そして実際に聴き合いをするには、相手に関心をもっていることが大切です。そして実際に聴き合いをするには、相手に関心をもっていることが大切です。」

### メンバー間・コミュニケーションでさらに関係性を深める

「相手に関心を払う」ということは、言葉でのコミュニケーションだけでなく、態度や表情などメンバー間のコミュニケーションで伝わっていくことも非常に大事です」

実際、日常の中でも、言葉そのものよりも相手の表情、身振り・手振りなどから、「何を本気で伝えたいのか」を感じ取っていることが多い。アメリカの心理学者メラビアンの調査によると、コミュニケーション全体の93%が言葉によらないコミュニケーションであるという。だからこそ、言葉を使わずに行うワークの教材などを活用すると、コ

き合いをすることによって、互いに認め合うようになり、単に関心を「持つ」のではなく、積極的に関心を「払う」ことへとつながっていきます。話をした側は、「自分を受け入れてもらえた」という自信にもつながる。この「自信を持つ」ことが、とても大事だと思います」

コミュニケーションをより実感していくことができるのではないだろうか。(コラム2)

### ワークを実施する際の教師の役割とは

最後に、「聴き合い」やメンバー間・コミュニケーションのワークなどを実施する際の注意点。

「よく、ファシリテーターとしてどんなスキルが必要ですかと聞かれることがありますが、重要なのはスキルではなくスタンス(取り組み姿勢)です」

「一番必要な姿勢は、生徒が感じたり気づいたりすることの邪魔をしないということ。」

「日頃、教科を教えている教師の場合、つい『教える』ことをしたくなりま

す。振り返りのときなど、なかなか自分が進まない生徒がいると、「こんなことに気づいたりしなかった？」などと言いたくありません。書けないながらも、生徒の中では何かが起こっています。それを感じさせてあげることが大事です。もしもしたら、10年後にその答えを書けるかもしれない。それでも十分というくらいの気持ちで、取り組んでいただければと思います」



【組織が生きるチームビルディング】  
北森義明著 東洋経済新報社  
長年、人と組織の活性化に取り組んできた著書が、さまざまな事例とともに「チームビルディング」をどのように考え、実践するかを説いた書。

●著者紹介  
順天堂大学名誉教授、武蔵野大学客員教授、(株)ラーニングバリュー顧問取締役、(株)ノースウッズ研究所代表取締役所長、(株)日本心理技術センター客員スタッフ。企業やスポーツチームの教育プログラムのデザイナー、ファシリテーターとして活躍。

### コラム1. 「聴き合う」ワーク

ホームルームなどを利用するのであれば、2回に分けて「聴き合う」ことを体感するといいでしょう。

#### 1時限目

- 4人くらいの班を作る。生徒には、日頃仲良しのグループとはできるだけ離れて、これまで話したことのない人や、自分とはまったく違うタイプだと思う人と組めると嬉しいとアドバイスしたい。
- 班の中で、順番に簡単な自己紹介。趣味や好きなことなどを話し、それに対して聞いている人は必ず一人に対して1回は質問をする。質問された人は、答えたくない質問にはパスしてもよいとする。
- 振り返り この時間に感じたことなどを、自由に書いてよいことにする。

#### 【項目例】

自分が伝えたいことが話せましたか？/人の話を聴くことができましたか？/感じたことを自由に

#### 2時限目

- 2人一組になって、一つのテーマについてじっくり話し合いを行う。約10分間。テーマは何でもよいので、生徒が話しやすそうと思うことや、先生が知りたいと思うことなどを書き出し、そこから選べるようにする。カードにしてシャッフルしてランダムに行うのもよい。

#### 【テーマ例】

最近ハマっているもの/この1年をどのように過ごしたいか/今一番大事にしたいこと/行ってみたいところ/好きな教科とその理由/クラスの目標にしたいこと/最近気になった出来事

- 時間が許す限り、相手を変えて、その都度テーマを選び話をする。
- 振り返り この時間に感じたことなどを、自由に書き、聴き合う。

#### 【項目例】

自分が伝えたいことが話せましたか？/人の話を聴くことができましたか？/感じたことを自由に

- ※ 班分けをする前に、学習タイプや行動特性などの簡単なテストを行い、自分と異なるタイプの人と組むように促すのもよい。
- ※ なかなか話をしようとしないう、テーマからずれて雑談になっているなど、気になることがあった場合も、暴力的行為などから守る場合以外、直接介入は避けたい。そこで起こっていることを生徒自身が感じることを大切。ルールが理解されていないと感じた場合は、全体に向けて再度確認するなどの方法をとる。
- ※ 振り返りは提出させず、それぞれ自分が感じたことを持ち帰れるようにしたい。

### コラム2. 北森先生お薦め メンバー間・コミュニケーション・ワーク

メンバー間のコミュニケーションワークとして、言葉を禁じてアイコンタクトだけでワークを行うなどの教材が、(株)プレスタイムより発売されている。



■CHR ベストセレクション 106  
協力ゲーム  
【無言でジェスチャーもダメ】というルールで、チームの全員が与えられた紙片を使って同じ大きさ、形の図形を作るという課題。メンバー間・コミュニケーションを学ぶ際のスタンダード。



- <他、コミュニケーションやチームづくりのためのワーク>
- CHR8分冊 第2巻コミュニケーション
- CHR8分冊 第3巻チームワーク(グループプロセス)
- クリエイティブスクール(学校向け教材)

取材・文/清水由佳(ライター・キャリアカウンセラー)

## キャリアガイダンス @メール 新規会員募集!

キャリアガイダンスから定期的にお届けするお知らせ(第1・第2水曜日)で、楽しく役に立つ情報をゲットしてください。

●メールマガジン会員になるとこんな情報が届きます(無料)

研鑽&スキルアップのための情報  
教育関連イベント情報  
進路指導・キャリア教育に役立つコンテンツ/ブックガイド

【キャリアガイダンス.net】更新情報のお知らせ  
『キャリアガイダンス』『カレッジマネジメント』電子ブック  
ガイダンスに使えるデータ&ワークシート  
高校生の進路や意識、大学に関する調査報告  
元気になる悩み相談 などなど

記事の制作にご協力ください

### 2012 キャリアガイダンス 編集協力委員募集!

編集協力委員の先生方には、年に数回、指導の実践例や日頃お考えのことについてのメールアンケートにお答えいただいています。アンケートにご回答いただくこと、図書カード(500円)を差し上げます。また、『キャリアガイダンス』『クラス担任のためのキャリアガイダンス』『キャリアガイダンス@メール』を無料でお送りします。

#### ●メールでご応募ください

件名を「編集協力委員応募」とし ①お名前 ②学校名 ③分掌 ④メールアドレス を記入の上お送りください。  
送信先メールアドレス: career@rrecruit.co.jp

キャリアガイダンス@メール  
お申し込みボタン



http://souken.shingakunet.com/career/g/